

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 福岡県立福岡特別支援学校

【テーマ】 I II Ⅲ IV Ⅴ

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

スポーツに興味・関心を持つとともに、他者と一緒に体を動かす楽しさを味わうための工夫
～ボッチャ、ハンドサッカーを通して～

【実施学年、部、講座等】

中学部 第1～3学年（男子14名・女子10名）

高等部 第1学年（男子10名・女子4名）

高等部 第2、3学年（男子11名・女子8名）

【目的・ねらい】

- ・障害の実態に応じたルールでプレーすることで、自分にもできるという自信を持つ。
- ・自分の能力を精一杯活用し、自身の課題に挑む。
- ・連携する中でチームメイト個々の能力を生かし合い、各自の役割を果たす。
- ・相手チームの選手を尊重し、フェアプレーの精神でプレーする。

【種類】(当てはまるものに○)

- 各教科（保健体育）・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動
- ・教科以外での取組（ ）

【実践内容等】

(実施内容)

1 準備運動

主運動につながる運動を8分程度実施している。各自の課題を設定し、仲間や担当教師と一緒に取り組んだ。



2 ボッチャ

- ①ボッチャ並びにパラリンピックに興味を持たせるために映像を活用してパラリンピックの正式種目であるボッチャを紹介した。

※ボッチャについて

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツでパラリンピックの正式種目である。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競う。

②ボッチャを楽しむため、各自で課題を設定して練習を行った。

- ・転がす練習
- ・距離感をつかむ練習
- ・的の中に入れる練習
- ・ボールに当てる、ボールを避ける練習



③ボッチャ大会を行った。



3 ハンドサッカー

①ハンドサッカー並びに障害者スポーツに興味を持たせるために映像を活用して障害者スポーツのハンドサッカーを紹介した。

※ハンドサッカーについて

ハンドサッカーは、FP(フィールドプレーヤー)4名、SS(スペシャルシューター)1名、PG(ポイントゲッター)1名、GK(ゴールキーパー)1名の7名のチーム同士が得点を奪い合い、勝敗を争うハンドボールに似た競技。個々の選手のチャレンジをルールに組み込むことにより、他の競技には参加しにくい重度障がいの選手も出場できるよう考えられたユニバーサルスポーツです。

②ハンドサッカーを楽しむため、各自で課題を設定して練習を行った。

- ・ボールを保持して移動、パス、シュート、ディフェンス等の練習に取り組む。
- ・簡易化されたルールでのゲームを行い、ハンドサッカーを楽しむ。



③ハンドサッカー大会を行った。

- ・対戦表の作成、開、閉会式の運営、ゲームの進行(審判)等、可能な限り児童生徒が行えるようにした。



(実践上の工夫点、留意点等)

- ・全員が運動を楽しめるように、一人一人の実態に対応したルールや補助具を工夫した。
- ・活動中は仲間意識を高めることができるよう、名前を呼び合ったり、アドバイスし合ったりすることを意識させた。
- ・自分もやってみたいという気持ちを持たせるために映像で大会の雰囲気を味わわせた。

(成果)

- ルールや補助具を工夫したことで、各自が自信を持って取り組むようになった。
- 仲間を意識させることで、周りへの言葉かけが増えた。
- ボッチャやハンドサッカーを通して、他の障害者スポーツやパラリンピック、オリンピックに興味を持つことができた。
- 仲間と協力して取り組むことで、一緒に喜んだり悔しがったりして運動を楽しむことができた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- 自分で意思表示や行動が難しい生徒に卒業後も運動を継続する習慣を身に付けさせるためには、保護者の意識を変えていくことが重要になる。今後、体育授業での生き生きとした姿を見学に来ていただくよう呼びかけをするとともに、地域で行われている様々な競技会を紹介していきたい。